

手賀沼水生生物研究会



(上)2019年2月の池干し風景
(下)2017年7月の我孫子市民向け公開



【会の目的】

手賀沼およびその周辺地域に生息する水生生物およびその生育・生息地を保全すること。

【会員数】

42名(2019年4月現在)

【設立年月日】

2007年11月1日

【主な活動内容】

- *手賀沼における生きもの調査
- *手賀沼における環境・生きもの保全活動
- *手賀沼における環境・生きもの保全に関する啓発活動(各種観察会、勉強会、地域イベントへの出展など)
- *市内天然湧水池における希少種保全・復元活動
- *上記に関連して実施する手賀沼水系および利根川水系における生きもの調査
- *上記に関連して実施する各種勉強会
- *美しい手賀沼を愛する市民の連合会、全国ブラックバス防除市民ネットワークの会員団体としても活動

(上)捕獲した二枚貝(中)

ゼニタナゴ(下)オオモノ

サシトンボ© t.momose

【公募助成金を原資に実施してきた事業】

- ◆ 天然湧水池における希少種保全・復元活動
2003年、我孫子市野鳥を守る会と日本蜻蛉学会は NEC 社我孫子事業場内に位置する4つの天然湧水池(通称、四ツ池)の生態調査を行い、希少トンボのオオモノサシトンボを確認。しかし、同時に多数の外来魚の生息が確認され、絶滅が危惧されました。外来魚の駆除について相談を受けた当会は、同社との協働により四ツ池保全活動を2009年より開始。保全活動の主な活動内容は外来生物の駆除、マコモなどの植栽、トンボのためのビオトープの設置、木々の伐採、希少水草の保全などです。
活動は今日まで継続し、2015年には地域絶滅種ゼニタナゴの復元も開始しています。地域固有のゼニタナゴは野生絶滅したものの、幸い滋賀県の琵琶湖博物館で系統保存されていました。これを土浦の有志が譲り受けて増殖したものを四ツ池に移入したのです。現在、同敷地内の人工池で繁殖が確認されていますが、近い将来、天然湧水池への移入を目標にしています。
- ◆ 池干し
四ツ池の保全活動で大きな比重を占めるのが、外来生物の駆除です。オオモノサシトンボはじめ、四ツ池に生息している多彩なトンボ類を守るためにも、また、ゼニタナゴの移入と定着を実現するためにも、オオクチバス、ブルーギルなどの駆除活動が欠かせません。そこで、水を抜くことによる水環境の変化を調査する千葉県中央博物館の調査と連動し、2019年1~2月、4つある池のうちC池とD池の池干しを実施し、外来生物(オオクチバス、ブルーギルなど)を駆除しました。現在は水質も含め、その後の推移を見守っているところですが、秋には天然池へのゼニタナゴの放流も計画しています。
- ◆ 我孫子市民への四ツ池公開
四ツ池の保全活動に当たっては、我孫子市にもご協力をいただけてきましたが、2017年度からはそのつながりを生かして、我孫子市民に四ツ池を公開し、オオモノサシトンボやゼニタナゴを見てもらおう活動も、我孫子市と NEC 社のご協力により行っています。池干しにあたっては市民ボランティアの協力も得、その中から3名の方が会員になってくれました。
- ◆ 手賀沼における生き物調査、環境・生きもの保全活動
当会では年1~2回、手賀沼における船上調査&野外勉強会を実施しています。水位の下がる秋~冬には沼内に降りて足で貝を探す貝類調査とプランクトン調査を実施しています。また、初夏と秋に2回、親子自然観察会(用水路で魚とり!)も実施。申し込みが定員を大幅に上回る人気企画となっています。ほかにも漁師さんに定置網の獲物を持ってきてもらい、仕分けして見せるイベントや、松戸市や白井市の市民を対象にした観察会などにも協力しています。地域イベント Enjoy 手賀沼!では魚のタッチングプールも実施。また、これらの活動について、「市民のチカラまつり」などで展示も行っています。
- ◆ 手賀沼水系・利根川水系での生き物調査やそれに関連する勉強会など
ゼニタナゴをはじめタナゴ類の増殖に欠かせない二枚貝は、関東では減少が著しい生き物です。しかし、タナゴ~二枚貝~ハゼ類が共生する淡水環境は、関東の水辺が「取り戻したい自然」でもあります。そうしたことから、手賀沼源流の河川や渡良瀬遊水地で生きもの調査や貝類調査を行ったり、埼玉県のオオモノサシトンボ生息地の見学会を実施したりしています。